

式 辞（令和2年度養正小学校卒業証書授与式）

学校や玉置町公園の桜のつぼみもふくらみはじめ、養正小学校区の風景も少しずつ春の装いに移り変わろうとするところとなりました。一方で社会には厳しい状況が続く中ですが、保護者の皆様にもご臨席をいただくことができ、令和2年度養正小学校卒業証書授与式を挙げていきますこと心より安堵し、感謝をいたします。

ただいま卒業証書を授与しました53人の卒業生のみなさんおめでとうございます。

私は皆さんが4年生のときからこの学校で3年間ともにすごしてきました。その間、二回の社会見学やキャンプ、そして二転・三転・四転しましたが、晴れた空のもと楽しく実施できた修学旅行などの大きな行事が思い出されます。

5年生までは、男子の多くの人にはしょっちゅう叱る場面がありました。女子はそのかげでひっそりしているというイメージが強かったですが、6年生になって全体に落ち着きが出てきて、男女かわりなく自分の良さを前面に出し、また話をきく力もほかに備わってきました。さらに最上級生らしい行動もふえてきました。

せっかくそのように成長してきた皆さんに、新型コロナウイルス感染症の拡大という苦難が行く手を阻んできました。最後の一年間に、いつもどおりのあたりまえの最上級生らしい活動の場をもっと与えてやりたかったのに、もっと楽しい行事をしてやりたかったのに、もっと仲間や下級生と交流できる場面をつくってやりたかったのに。

もっと、もっと、もっと……。

皆さんもくやしい残念な気持ちがあるだろうし、佐野先生・榎本先生や、職員の人たち、みんなが同じ思いです。

しかし、その何もかも縮小・削減の逆風の中でも皆さんの“小さくてもキラリと輝く”成長や活躍はうれしく誇らしく思います。

さて、私がずいぶん前に読んだ小説の中に「風が強いほど旗は美しい」という言葉がありました。意味を考えると、ポールにかかっている旗は、無風であるほどだらんとしています。しかし、強風するときほど旗は翻り、そのデザインもくっきりと美しく見えます。

卒業生のみなさんがこれから歩いていく人生には様々な困難やカベがあります。私たち人間には大なり小なり心の弱さがありますから、そこから逃げてしまうこともあれば、理由をつけてさけてしまう、あるいは人の責任にしてしまう場面もあるかもしれません。でも、最も美しいのは、困難やカベがあっても、足を踏ん張って懸命に生きている姿です。

まさに「風が強いほど旗は美しい」のです。

もちろん、これから生きていく中では、自分の力だけでは踏ん張れない困難やカベもあります。さきほどの言葉になぞらえれば、旗が千切れるぐらいの強風ということです。そんなときこそ、旗をしっかりとつなぎとめるポールやロープの役割が大切です。つまり家族や先生、周りの人や仲間の力や支えがあるわけです。ぜひそのつながりを大切にし、感謝することも忘れずに生きていってください。

最後になりましたが、保護者の皆様 お子様のご卒業誠にありがとうございます。昨年度末からの臨時休校や分散登校、熱中症の危険のある時期の授業日など例年の数倍のご心配をおかけしました。また、修学旅行をはじめとする行事等も軒並み変更や見合わせをし、たいへん心苦しく思っております。しかし、そのような中でも苦渋の選択の数々にご理解をいただきあたたかい気持ちで学校を支えていただいたことには、これまでの六年間のご理解ご支援と合わせて、感謝の思いでいっぱいです。

高席からではございますが心より御礼申し上げます。

卒業生のみなさん、これからの時代はコロナ禍を乗り越えたのち、前の時代にただ戻るのではなく、新しい技術革新や生活様式の中での新たな社会となります。困難や戸惑いもありますが、未来への希望が広がる時代でもあります。その中で、忘れてはならないのは長島りょうがんさんのお話にもあった人のつながりや言葉の重みです。このことはコロナ禍の中で社会全体があらためて気づかされ反省させられた点です。いつも自分を振り返りながら心豊かな人として明るい未来を切り拓いていってください。

今後の皆さんの輝く姿を楽しみに、卒業にあたっての式辞といたします。

令和3年3月18日

津市立養正小学校長 樋口浩一郎